

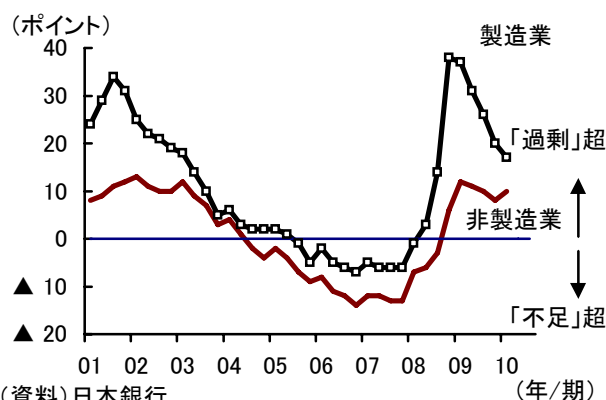
2010年夏季賞与の見通し ～4年連続のマイナスに～

- (1) 今夏の賞与を展望すると、民間企業の1人当たり支給額は、前年比▲1.6%と夏季賞与としては4年連続のマイナスに（図表1）。
- (2) 背景には、企業の人件費増大に対する慎重な姿勢。日銀短観によると、夏季賞与に大きく影響する09年度下期の収益は急回復しているものの、雇用判断については、最悪期は脱したものの過剰感が残存（図表2）。この背景として、①伸び率は高いものの水準としては、低い企業収益、②原材料・エネルギー価格の上昇による仕入れ価格上昇と販売価格面でのデフレ圧力の強まり（図表3）、③弱さの残る内需動向などが指摘可能であり、企業は人件費拡大に慎重な姿勢を維持。雇用の非正規化等を通じた根強い人件費抑制の動きが続く見通し。
- (3) もっとも、収益回復を背景として、昨年急増した支給見送り企業は減り、支給労働者が前年比1.7%増えることにより、**支給総額は+0.5%となる見通し**（図表4）。
- (4) なお、国家公務員については、支給月数は前年度対比据え置き予定ながら、昨年の夏季賞与で反映されていなかった俸給月額引き下げの影響が出てくるため、前年比▲0.2%となる見通し（図表1再掲）。

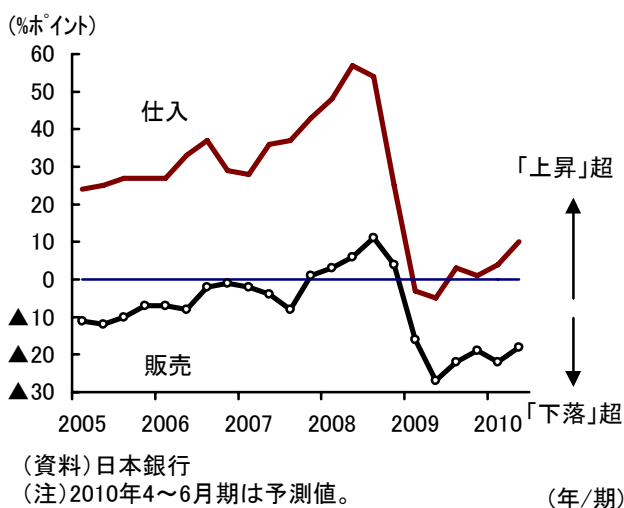
図表1 2010年夏季賞与の見通し

	民間企業		国家公務員	地方公務員
	製造業	非製造業		
2009年度年末(実績)				
支給額(万円)	38.0	43.7	64.7	60.7
前年比(%)	▲9.3	▲14.8	▲6.6	▲7.3
2010年度夏季(予測)				
支給額(万円)	35.7	43.4	57.2	54.0
前年比(%)	▲1.6	▲0.3	▲0.2	▲0.2

図表2 雇用判断DI(過剰-不足)



図表3 価格判断DI(上昇-下落)



図表4 支給総額と支給労働者割合

